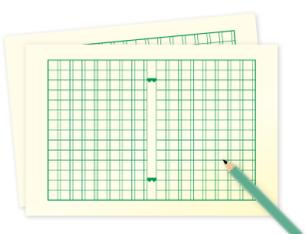
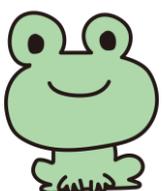


# はじめての読書感想文 ―書き方講座―



一、感想文が完成するまで

(1)本を選ぶ

○図書館や本屋さんへ行く。

○お子さんに好きな本を選ばせる。

課題図書じゃなくてもOK！

親は絶対否定しない。

お子さんの気持ちを

優先に！

(2)読む↓心が動いたところに付せん(メモ)

ページ数

P. 60

「かえるくんはまどからのぞきました。かたつむりは まだやってきません。」

かたつむりは、どうしちゃんたんだらう。手紙がとどくかしんぱいだなあ。早くればいいのに。

気づき(思ったこと)

心が動いた文

※ 図書館の本には付せんは貼れません。メモをはさんでおきましょう。

(3)親子で対話

「どうしてそうおもったの」「なぜ、そこが気になるの」

「もし、じぶんだったらどうする」「どうして付せん(メモ)に○○ってかいたの」

「もし、まほうでおはなしをかえられるとしたら、どうしたい」

「どうしよう人物にへんしんするなら、だれになりたい」

①どうして心がうごいたのか？

②お子さんが話したこと  
(答え)

P. 60

①どうして、手紙がとどくかしんぱいだったの？

②だって、かえるくんがまっているのに、かたつむりがなかなかこないから。

(4)文を書く

①心が動いた文

②お子さんの話したこと(質問の答え)

をセットに文を作っていく。

△例▽

『お手紙』 『ふたりはともだち』 アーノルド・ローベルより

① どうして、手紙がとどくかしんぱいだったの？

② だって、かえるくんがまっっているのに、かたつむりがなかなかこないから。

① 質問と答えをセットにし、文を作っていく。

「ぼくは、お手紙がとどくか すごくしんぱいだった。かたつむりが、なかなかこないから はやくくればいいのにおもいながらいた。」

② 言葉を足す

「ぼくは、お手紙がとどくか すごくしんぱいだった。かえるくんが ずっとまっっているのに、かたつむりがなかなかこないから、ぼくは、はやくくればいいのにおもいながらいた。」

③ 付せん(メモ)に残された言葉から、文を肉付けする。

言葉かけ

「かたつむりはどんな生きもの?」「歩くのはやい?」

「かえるくんの きもちはどうかなあ。」

「かえるくんは、はやく手紙がくるといいなあって、しんぱいしながらまっっていたと思う。ぼくもかえるくんとおなじきもちだった。少しイライラしちゃった。だって、かたつむりがなかなかこないから。でも、かたつむりは、あるくのがゆっくりな生きものだから、いっしょうけんめいがんばっても、すぐにとどけることができないから、しかたがないのかなとおもった。」

擬態語を使う!

「すべすべ」「わくわく」「ぴかぴか」

ポイント 1

擬音語を使う!

「ふわふわ」「ほかほか」「あつあつ」

ポイント 2

「うれしい」「 ↓ 」とびあがるほどうれしい

「かなしい」「 ↓ 」ねむれなくらいかなしい

(5) 下書きする

書き出しが大事！

① 結論(お子さんが強く感じたこと)からふくらませる。

② 「会話文から書き始める。」

③ お手紙ふうを書いていく。

(6) 題名を考える

△「○○○○」を読んで

◎ 付せん(メモ)からキーワードを探そう

例 よかったね、がまくん。

いつまでも、なかよくね

「ともだち」っていいね。 など

(7) 清書する

まずは、前日書いた文を読み返し、音読してみよう。

**すぐに下書きしない！**



気づき生まれる

△文の組み立て▽

おわり	中	はじめ
<p>① 本をきっかけに考えたことやこれからの目標をまとめる。</p> <p>② 主人公への呼びかけてまとめる。</p>	<p><b>柱</b> 主人公のころの動き</p> <p>新しい発見 気づき</p> <p>↑</p> <p>つながり(ことば)を上手に使おう！</p>	<p>① 本の紹介から書く この本は、二匹のかえるくんのお話です。</p> <p>② 本を選んだ理由から書く</p> <p>タイトルに「なかよし」ってあるけど、どれくらいなかよしかしりたかった。</p> <p>③ 主人公に呼びかけられるように(お手紙) 「がまくん、そんなになさしないで。」</p> <p>④ 結論から書く 二人は最高の友だちだと思って思った。ぼくまでしあわせな気分になった。</p> <p>⑤ 心のこった文から書く 「二人ともとてもしあわせな気もちでそこにすわっていた。」</p>

中の部分には、本から読み取った中で共感したことを書く  
とよい。また、主人公の行動や考え方に似た体験談を書く。  
つまり自分自身のことを必ず入れる。全体の約5割!  
あらすじにはならないように!

☆しつもんことたえをセットにして 文をつくってみよう。



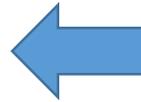
①	②

①しつもんことたえをセットにして文をつくる。

②ことばをたす。



③しつもんことたえをセットにして文をつくる。



オノマトペ(ぎたいご・ぎおんごなど)



二、作文用紙の使い方

一行目 題名 三マス下げる。  
二行目 学校名・学年・氏名

書きはじめは、  
1マス下げる。

かえるくんへ

〇〇小学校 二年 神栖 太郎

かえるくん、なんて友達ちおもいでやさしいんだらうっておもったよ。

かえるくんが、まどの外を見てたとき、「かたつむりさん、もっとはやくあるいて、かえるくんがまってるよ。」

って、ぼくは大きなこえでさけびながらよんでいたよ。

よかったね。

会話文「 」の2行目は、「 」のとなりには書かない。1マス下げる。

句読点の打ち方  
一番下のマスが文末になってしまったときは、1マスに文字と句読点を入れる。

題名 本のタイトルには『 』をつける。  
例『お手紙』を読んで

文字数は八百字。題名と氏名は文字数には入らないので、三枚目の二行目まで書くとよい。

はじめての読書感想文―書き方講座

二〇二二年七月二十四日第二版発行

著者 高田悦子

発行 神栖市立図書館

〒三二四―〇二五四

茨城県神栖市大野原四丁目一八―六

Tel.〇二九九―九二―三七四六